



アンドリュー・マイケセル  
Andrew Mikesell

アメリカ出身

夏休みですね。皆さんは何か楽しみにしていることはありますか？この夏休み、僕は2年ぶりにアメリカへ帰って家族に会います。僕の娘にとって彼女の祖父母に会うのは初めてのことで、僕の父母もとても楽しみにしています。

2年間の日本滞在で日本の夏とアメリカの夏の違いについて学びました。今回はアメリカの夏について紹介したいと思います。

日本の夏はとても蒸し暑く、慣れるのが初めはとても難しかったです。僕の出身地であるユタ州も暑いですが、ユタ州の気候はとても乾燥していて日本の暑さとは違う暑さです。日本では汗をかくとなかなか乾かないですが、ユタではすぐに乾きます。

日本では各部屋にクーラーを設置しないと家が涼しくなりません。アメリカではセントラルエアーシステムが

あり一年中家の中の気温が適度に保たれます。とても暑がりな僕はセントラルエアーシステムがとても恋しいです(笑)。

日本の夏休みは1カ月半と短いですがアメリカの夏休みは3カ月と長いです。アメリカの夏休みは5月末に始まり8月に終わります。長い夏休みで子どもたちはたくさん思い出をつくることができます。

7月4日はアメリカの独立記念日で全国で花火が上げられます。家族が集まってバーベキューを楽しみます。また、各地でサマーフェスティバルが行われ、いろいろなアートや食べ物を楽しむことができます。

まだまだ暑い日が続きますが、熱中症に気を付けて皆さん楽しい夏を過ごしてください！



きらボン

## 図書館の おすすめ本

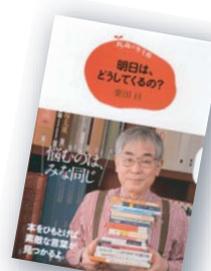
市立図書館  
☎ 0956-72-4677

松浦市ホームページで  
「松浦市立図書館」を検索



### 『歳月がくれるもの まいにち、ごきげんさん』 田辺聖子／世界文化社

恋愛、結婚、仕事など今を生きる女性たちへ人生経験豊かな著者からの応援メッセージ。生きるって楽しい。心躍ることがたくさんある。関西弁の軽快な語り口に幸せ探して頑張ろうと元気をもらえるエッセイです。



### 『明日は、どうしてくるの？ 15歳の寺子屋』 栗田亘／講談社

ふと手にした本の一行が、迷った時の解決の手がかりになることがあります。本書では、若い人たちの疑問や、自身の若いころの疑問に、著者が読んだ本を取り上げながら答えます。悩みを持つあなたにぜひ読んでほしい一冊です。

### ◆◆◆あかちゃん・子どものお気に入り◆◆◆

このコーナーでは図書館に来てくれたあかちゃんや子どもたちのお気に入りの一冊を紹介します



志佐町池成免の家村さおりさんと真由ちゃん(7歳)と祥一朗くん(4歳)

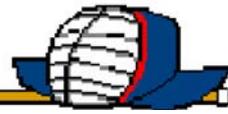
#### 【お気に入りの本】

『のはらひめ おひめさま城のひみつ』 なかがわちひろ／さく 徳間書店  
『むしたちのおんがくかい』 得田之久／童心社  
『とんとんとんのこもりうた』 いもとようこ／講談社

#### 【お母さんからひとこと】

うちの子どもたちは絵本が大好きで、姉弟喧嘩の真っ最中や不機嫌な時に絵本を読み出すと、自然と私の所へ近寄ってきて絵本の世界に夢中になり機嫌が直っています。絵本って不思議で私や子どもたちの心を和ませ、穏やかにしてくれます。わが家での大事なコミュニケーションツールの1つです。

※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館もお待ちしています！



■子どもたちが元気になぎなたの体験をしています!!

本年度も6月から、市内の小・中学校でなぎなたの体験授業を始めました。これまで同様、なぎなたの普及活動として、基本動作やリズムなぎなたを紹介し、体験してもらっています。

今回、初めてなぎなたを体験する子どもも多く、なぎなた特有の長さや、横向きの動作に戸惑っていた子ども、集中して練習をするうちに、全員が基本的な動作を身に付けることができました。また、福島中学校では校歌で“リズムなぎなた”を行いました。校歌を自分たちで歌い、掛け声を出し、楽しみながら演舞しました。子どもたちの覚えは早く、短時間でみるみる上達し元気な声を出しながら技を出していました。

これから訪問する学校でも、より一層なぎなたに興味を持ってもらえる体験にしたいと思います!!

「また、なぎなたしたい!!」  
「難しいと思ってたけど、できるようになって良かった」といった感想をもらいました!!



■松浦なぎなたクラブも元気に活動 & 仲間募集中です!!

中学生9人、小学生2人の11人で元気に活動しています!!リズムなぎなたも新しい曲に挑戦し、発表の機会も増えています。少しでも興味のある人はぜひ一度来てみてください。写真のメンバーが待ってます!!



わたしたちの郷土

— 89巻 —

中世の松浦(55) 鷹島海底遺跡

遺物の調査研究を行う上で、まずすべての種類の遺物に共通するのが肉眼観察です。しかし、これには限界があるため、それを補うためにさまざまな調査機器を用います。

大きくは可視光線以外の電磁波を用いるものや、レンズなどによって対象物を拡大して観察する方法があります。金属製品を対象とした調査としては、X線による構造調査や材質調査、後者は顕微鏡による表面調査などが主な手法として挙げられます。X線を用いる構造調査は、レントゲン撮影、あるいは透過X線撮影などと呼ばれ、医療の場でも頻繁に行われています。X線が可視光線よりもエネルギーが強い性質を利用して調査対象物にX線を照射し、透過、吸収されるX線を何らかの形で可視化して、表面から見ることでできない内部の情報を得るものです。

壹岐市には市立一支国博物館に併設して長崎県埋蔵文化財センターが開館しています。同センターには、透過X線撮影装置や蛍光X線分析装置などの機器があり、遺物の状態の調査を行っています。この透過X線撮影装置を活用して、鷹島海底遺跡の鉄製品約120点を調査しました。

調査の結果、錆で覆われている資料の中でも約20点はさらなるX線CT調査が必要となりました。これらは九州国立博物館で詳細な調査を予定します。



▲長さ24センチの鉄釘が調査の結果、小刀の可能性ができました。